

わが家の防災対策

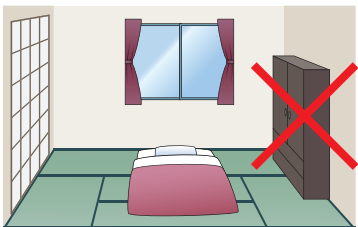
家の中の安全対策

家の中に逃げ場としての安全な空間をつくる

部屋が幾つもある場合は、人の出入りが少ない部屋に家具をまとめて置く。
無理な場合は、少しでも安全なスペースができるよう配置換える。

寝室、子どもやお年寄りのいる部屋には家具を置かない

就寝中に地震に襲われると子どもやお年寄り、病人などは倒れた家具が凶器や妨げとなってケガや逃げ遅れる可能性があります。



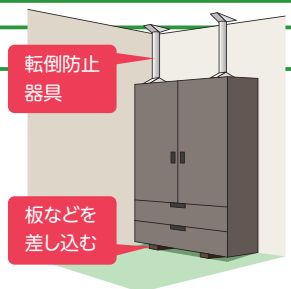
安全に避難するため、出入口や通路にものを置かない

玄関などの出入口までの通路に、家具など倒れやすいものを置かない。また、玄関にいろいろなものを置くと、いざというときに、出入口をふさいでしまうことも。



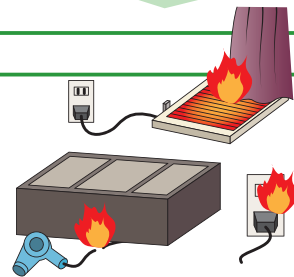
家具の転倒を防ぐ

家具と壁や柱の間に遊びがあると倒れやすい。
家具の下に小さな板などを差し込んで、壁や柱によりかかるように固定する。
また、金具や固定器具を使って転倒防止策を万全に。



電気火災発生の防止

大地震が発生した際には、多数の火災が発生し、多くの方が命や財産を失っています。
地震火災の原因の多くは電気が関連しており、電気機器など（電気ストーブ、電気コンロなど）の転倒による出火や、電気復旧時における**通電火災**（破損した電気コードのショートによる出火など）があります。このような電気火災を防ぐため、**感震ブレーカー**などを設置しましょう。



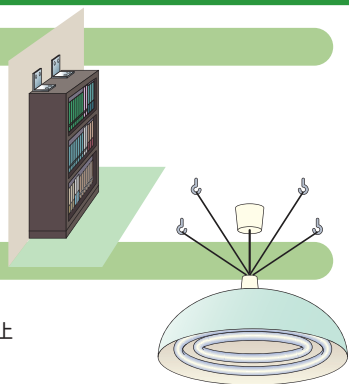
感震ブレーカー

あらかじめ設定した震度以上の地震が発生した場合に、自動的に電気の供給を遮断しますので、電気による出火防止に効果的です。

家具の転倒、落下を防ぐポイント

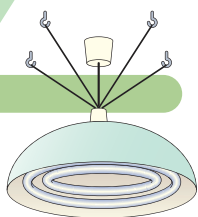
タンス・本棚

L字金具や支え棒などで固定する。
二段重ねの場合はつなぎ目を金具でしっかり連結しておく。



照明

チェーンと金具を使って数箇所止める。
蛍光灯は蛍光管の両端を耐熱テープで止めておく。



ピアノ

脚にピアノ用の転倒防止器具を。



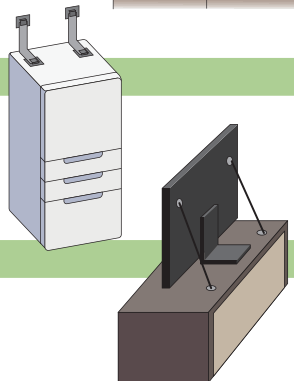
食器棚

L字金具などで固定し、棚板には滑りにくい材質のシートやふきんなどを敷く。重い食器は下に、軽い食器は上の方に置く。
扉が開かないように止め金具をつける。



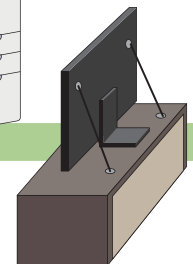
冷蔵庫

転倒防止器具で壁に固定する。



テレビ

できるだけ低い位置に固定して置く（家具の上はさける）。



家の周囲の安全対策

ベランダ

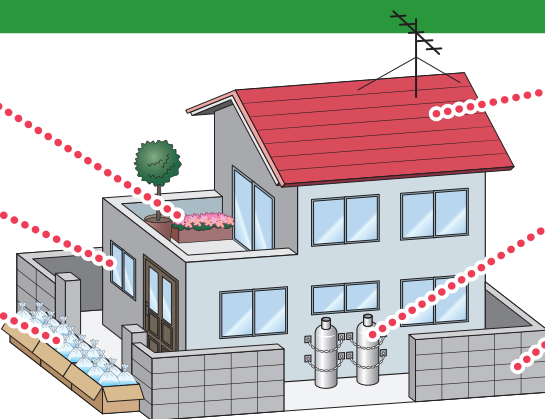
植木鉢などの整理整頓を。
落ちる危険がある場所には何も置かない。

窓ガラス

飛散防止フィルムを貼る。

簡易水のう

ポリ袋に水を入れたもので、段ボールなどと組み合わせることで防水壁として土のうの代用ができます。



屋根

不安定な屋根のアンテナや、屋根瓦は補強しておく。

プロパンガス

ボンベを鎖で壁に固定しておく。

ブロック塀・門柱

土中にしっかりとした基礎部分がないもの、鉄筋が入っていないものは、危険なので補強する。ひび割れや鉄筋のさびも修理する。